

M76-M85 は、マークシートの対応する場所にマークせよ。

次の説明文は上下の 2 つの文章（前文と後文）から構成されている。

前・後文共に正しければ a、前文のみ正しければ b、後文のみ正しければ c、前・後文ともに誤っていれば d にマークせよ。

M76) 心臓を構成する細胞は単核で横紋構造を示す。

横隔膜は横紋構造のない平滑筋である。

M77) 筋短縮時には筋節の長さは短くなっている。

短縮は構成するミオシンフィラメントの短縮による。

M78) 横行小管 (T - s y s t e m) は、筋鞘が細胞内部に落ち込んだ部位である。

神経筋接合部で発生した活動電位は、横行小管にも伝導する。

M79) 運動単位とは、 γ -運動細胞とそれによって支配される筋線維群からなる。

神経支配比が大きいほど細かな筋収縮の調整が可能である。

M80) 興奮収縮連関により、筋細胞に活動電位が発生すると同時に筋収縮が開始する。

筋電図とは、筋線維の物理的収縮の程度を電気信号化し記録したものである。

M81) 等張性収縮の特性は、負荷を一定にしたときの短縮曲線で観察される。

筋の最大短縮速度は、筋への負荷量にかかわらず一定である。

M82) 骨格筋の静止膜電位は、平滑筋の静止膜電位より過分極している。

骨格筋の不応期は、心筋の不応期より短い。

M83) 血中カルシウムイオン濃度の低下は筋の律動的収縮を誘引する。

筋収縮には筋小胞体から原形質へのカルシウムイオンの放出が必要である。

M84) 筋細胞を刺激し活動電位を発生させる強度で 2 回続けて刺激すると、刺激間隔により活動電位は加重することがある。

骨格筋神経筋接合部での化学伝達物質はアセチルコリンである。

M85) 腓腹筋は白筋、ヒラメ筋は赤筋に分類される。

腓腹筋を構成する運動単位のうち、FF type の筋線維は収縮時間が早く、疲労も早い、発生張力は高い。